





小菅村宿泊学習

学校名	 東京農業大学稲花小学校
参加人数	 児童 144人 (3年生 72人 4年生 72人) 教師 6人

実施した活動の目的、概要

本校の位置する世田谷区を流れる多摩川について、今も昔も東京の暮らしを支える貴重な水資源であることを知る。また、源流域である小菅村で宿泊体験学習を実施する。小菅村の多摩川源流大学の学長を務める宮林茂氏は、東京農業大学の元教授であり、小菅村は本校との関りは大変深い。多摩川源流大学のスタッフ(東京農大卒)の方々との交流や源流体験を通し、水源林の役割、水や森や魚など自然に対する理解を深め、それらを守る人々の思いに気付くとともに、環境について考える機会とする。

実施した活動の内容

- 5月** 社会科「水はどこから」 ○ 私たちが普段使っている水はどこから来るのか考える
 稲花タイム「小菅村・多摩川学習」○ 多摩川について知る ※東急財団「ようこそ多摩川へ」を副読本として活用
 社会科「水はどこから」○ 森は水を溜める「緑のダム」であること、水源の森を守る取り組みについて知る
 小菅村宿泊学習 (山梨県北都留郡小菅村 多摩川源流大学周辺) 6/30~7/1 7/7~7/8
 ○ 木工体験 (木おび・箸づくり*小菅村は村の95%を森林が占める) 源流体験 小河内ダム見学
- 7月** 稲花タイム「小菅村・多摩川学習」 ○ 学習のまとめ

活動の様子

稲花タイム「小菅村・多摩川学習」

- ・多摩川はこの地域を流れているのだろう 世田谷区、大田区・・・地図で調べてみよう



活動を行った効果、参加者の声など

本校は開校から4年、今年度1期生が初めて小菅村の学習に取り組みました。多摩川源流大学は前述の通り東京農業大学の元教授が学長を務め、本校にとって非常に縁の深いところです。多摩川学習・小菅村体験学習は、森林のこと、水資源のこと、環境のこと等々、未来を生きる子どもたちがたくさんのことを学ぶ機会と位置付けています。東急財団様からいただいた「多摩川の自然と川のめぐみ ようこそ多摩川へ」は、多摩川学習を進める際に必要な資料が非常にわかりやすくまとめられており、大いに活用させていただきました。現3年生は、今年度3学期から、多摩川学習をスタートさせる予定です。いただいた冊子を、調べ学習に活用させていただき、子どもたちの学びを深めていきたいと思っております。



進め！浅川探検隊

学校名	 八王子市立第四小学校
参加人数	 児童 82人（4年生） 支援者 八王子市エコ広場職員 9人 保護者 13人

実施した活動の目的、概要

- ・学校の近くを流れる浅川の流域に生息する多様な生物について調べる活動を通して、それぞれに特徴があり、浅川には多種多様な生物が存在していることが分かる。【知識及び技能】
- ・集めた情報や観察した結果から得られた浅川の生物の情報整理を行える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・遠足と一緒に行く3学年の友達を意識して、より分かりやすい表現を見つけようとする。【学びに向かう力、人間性等】

実施した活動の内容

- ① 5月中、浅川の流域に生息している魚、水生生物、植物などについて、自分の今までの経験や知識を出し合う中で、自分の活動のテーマを設定する。
- ② 6月1日、自分が伝えたい浅川の生物について、実際に川の中に入ったり、生物を採取したりして、詳しく調べる。インターネットや「川の学習帳」「ようこそ多摩川へ」などの資料を有意義に使用する。
- ③ 6月24日、ウグイの放流を行う。紙芝居を読んでいただき浅川環境について学ぶ。
- ④ 各グループで、見たり聞いたりしたこと、調べたことを模造紙にまとめる。
- ⑤ 2学期、3年生に向けて「浅川探検隊」の活動の様子や調べてまとめたことをポスターセッションの形式で発表する。

活動の様子

【浅川探検の様子】



【ウグイの放流の様子】




活動を行った効果、参加者の声など

- ・学校のすぐ近くにある「浅川」であるが、大多数の児童にとっては興味・関心をもつ対象とはなっていなかった。「浅川」を総合的な学習の教材に取り上げ体験学習や調べ学習を通して、より興味深い対象となり意欲的に学習が進んだ。
- ・インターネットから知識を得ることは、4年生にとっては難しく、インターネットだけでは自分の調べたいことを十分に調べ切ることができなかったが、「ようこそ多摩川へ」の資料があったお陰で、取った魚や水生生物の写真を見つけ絵にしたり、特徴を詳しく調べたりすることができた。「ようこそ多摩川へ」は川の生き物が種類ごとに流域別に資料がまとまっていたので、4年生にとってはとても調べやすかったようだ。一人一冊いただけたので、模造紙をまとめる際も「ようこそ多摩川へ」を効果的に活用することができた。
- ・この活動の体験学習には、八王子市のエコ広場の方々や児童の保護者など、大勢の方の支援をいただいた。支援していただいた方々から児童が「浅川」に興味・関心をもち生き生きと活動していてよかったとお褒めの言葉をいただくことができた。



「多摩川探検隊」

学校名		青梅市立第五小学校
参加人数		児童 47人（4年生） 教師 2人

実施した活動の目的、概要

本校の学区域は多摩川の上流部の南岸に広がる。多摩川は地域に根差した存在でありながら、児童にとってはなじみの深い場所ではない。そこで、身近の上流の多摩川の姿だけでなく、中流、下流の多摩川の姿に触れさせ、多摩川の自然や歴史など総合的に調べることで、多摩川に興味をもたせたる。更に、多摩川にはどんな生き物が住んでいるのか、どのように出来上がったのかこれからの多摩川を守っていくにはどのようなことが必要なのかなど考える機会とした。

実施した活動の内容

1学期の総合的学習の時間に「多摩川探検隊」という単元名で、多摩川に関して調べ学習を実施した。学校の近くの多摩川に出かけ、その後、「ようこそ多摩川へ」の冊子を活用して、多摩川に関して興味のあるテーマを決め、冊子の内容をまとめたり、ネットを活用したりして、スライドにまとめ、学級内で発表会をした。

活動の様子

- ・冊子を活用して上流、中流、下流に住む生き物や植物をまとめたり多摩川について知っていること、冊子から分かったことをまとめたりした。
- ・興味のあるテーマを決め、冊子の内容をまとめたり、ネットを使って画像を取り入れたりしてスライド制作を行った。
- ・出来上がったスライドを学級内で発表した。

【多摩川散策】




【冊子を見て調べ学習中】



活動を行った効果、参加者の声など

- ・中流、下流の多摩川が家の近くの多摩川と同じだなんて思えなくて驚いた。
- ・多摩川にいるなんて思わなかった生き物がたくさん住んでいることが分かって驚いた。
- ・多摩川に絶滅危惧種Ⅱ種がいることに驚いた。
- ・今はきれいなのに、昔の多摩川はすごく汚れていた写真を見て驚き、もっと詳しく調べたくなった。
- ・せっかくきれいになった多摩川をこれから、きれいにしていけないといけないと思った。
- ・関東大震災の後、多摩川の砂利が使われ、そのためには市が作られたことに驚いた。
- ・多摩川で筏を使い木を運んでいたことに驚き、もっと調べたいと思った。
- ・私たちが住んでいる青梅の山が東京の水源林になっていること、大きな小河内ダムがあることを知り見に行きたくなった。
- ・昭島市でくじらの化石が見つかったことに驚いた。



学校名 	小平第十小学校
参加人数 	児童 124人（4年生） 教師 4人

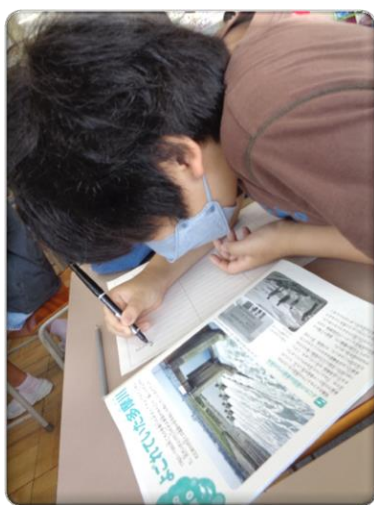
実施した活動の目的、概要

- ・1学期 社会科「水はどこから」の学習で、まとめの新聞を作成する際に活用しました。
- ・2学期 社会科「とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～」のまとめの学習で活用したいと考えている。

実施した活動の内容

1学期 社会科「水はどこから」 学校での水の使われ方や水不足、東京都の水、水が届くまでの流れ、水源林、浄水場などについて学習した後、水についての新聞を作成した。

活動の様子



活動を行った効果、参加者の声など

- ・タブレットで検索した内容よりも分かりやすい説明で、新聞にまとめやすかった。
特に、「多摩川の生まれるところ」のページや「よごれていた多摩川きれいになった多摩川」のページ、「これからも多摩川を守っていくために」のページが、参考になりました。



「ふしぎ発見！多摩川」

学校名	 調布市立 富士見台小学校
参加人数	 児童 84人（3年生） 教師 3人 その他 8人

実施した活動の目的、概要

- ・本校の身近な場所である多摩川について、もっとくわしくなること。
- ・自ら課題を見つけ、実際の観察および資料やインターネットを使用して調べ、わかったことをまとめること。
- ・友だちが調べたことの発表を聞き、より知識を広げること。

実施した活動の内容

- 5月末・・・ 活動1 多摩川ビンゴ（多摩川周辺で見たもの等）
- 6月・・・ 多摩川について、自分が興味をもったことを元に、さらに調べたいこと・知りたいことを決める。
魚・鳥・虫・植物・石・ゴミ・川の活用・川そのものについて 等のグループにわかれた。
- 6月末・・・ 活動2 多摩川情報館の方を講師に招き、フィールドワーク。
- 7月・・・ わかったことをポスターにまとめる。
ポスターを見せながら、発表会を行う。

活動の様子



活動を行った効果、参加者の声など

活動の前後に、家族とも多摩川に遊びに行った、石を拾ってみた、ハクセキレイがいた・・・などの声があった。冊子は写真が豊富で、児童にとっても大変わかりやすいものでした。



多摩市広報大使になろう

学校名 	多摩市立多摩第二小学校
参加人数 	児童 102人（3年生） 教師 5人

実施した活動の目的、概要

本校3年生は、多摩市内を中心とする地域学習にESDの視点をもって取り組んでいる。地域の宝の1つとして本校のすぐ近くを流れる多摩川の支流、大栗川をテーマとして探究する児童も多く、川の学習を通して地域の環境をまもるために自分にできることを考え、実践できる児童を育てたい。「ようこそ多摩川」は児童が自ら調べ、問題解決をするための有効な教材であり、活用させていきたい。

実施した活動の内容

5月～9月の総合的な学習の時間に「多摩市広報大使になろう」と題して地域の良さや紹介したいポイントを見つけ、パンフレットなどにまとめて発信できるよう、探究学習を行う。その一つの重要な体験として、大栗川のガサガサ体験を行った。

体験の事前にどんな生き物がいると思うか予想をたて、「ようこそ多摩川」を活用して多摩川に棲む生き物を知り、実際のガサガサ体験に臨んだ。地域の魅力の一つとして、年間の学習に活かしていく。

活動の様子

自分たちが住んでいる地域について、自らテーマや視点を決めて学習を進めたことで、児童が改めて気付くことが多くあった。特にガサガサ体験は、多くの児童がとても楽しみに活動に参加した。

【ガサガサ事前学習】

【ガサガサ】



活動を行った効果、参加者の声など



活動の効果

- ・自分たちが住んでいる地域に棲む生物を守りたいという気持ちが児童に芽生えた。
- ・身近な地域について、児童が新たに発見できたことが多くあった。
- ・身近な生物や、自ら調べることに興味をもてる児童が増えた。
- ・生物の命の大切さや環境を守ることの大切さへの意識を高めることができた。

参加者の声

- 「ぼくたちの近くにいろいろな種類の生き物がいて嬉しかった。」
- 「もっと調べて図鑑を作りたい。」
- 「川ってすごい。いろいろな生物が生きていくために必要なものだった。」



学校名 	川崎市立藤崎小学校
参加人数 	児童 107人（5年生） 教師 7人 その他（父母など）10人

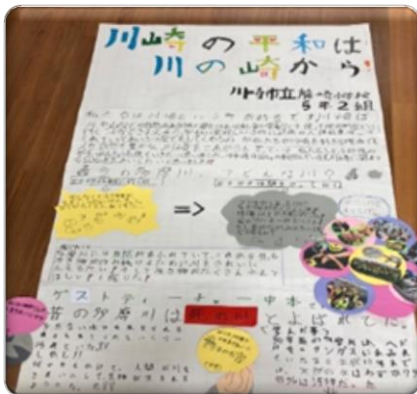
実施した活動の目的、概要

総合的な学習の活動で、SDGsの学習に取り組んでいる。そこで、川崎市に流れる子どもたちにとって身近な川として多摩川を取り上げた。多摩川に生息する多様な生物を調べたり、川と人々の生活の関わりを調べるたりすることで環境に対する意識を深め、SDGsの学習へとつなげていく。

実施した活動の内容

- ・5月 多摩川でガタガタ体験・中本賢さん講演
- ・6月 カワスイ、東芝未来科学館でSDGsについて学習
- ・6月～7月 テーマ別調べ学習

活動の様子





活動を行った効果、参加者の声など

- ・身近な自然である多摩川について、児童が知るよい機会となった。
- ・ガタガタ体験で取り組んで学習した内容以外のことも記載されていて学びが深まった。
- ・自分たちが住む下流のことだけでなく、中流・上流のことも知ることができた。



とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～

学校名	 武蔵村山市第四小学校（武蔵村山市立小中貫校村山学園）
参加人数	 児童 57人（4年生） 教師 2人

実施した活動の目的、概要

- ・1学期に「水はどこから」、2学期に「とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～」の学習で、副教材、参考資料として活用するため。
- ・川が身近にない地域のため、児童が多摩川のことを知り、川に興味をもってほしかったため。

実施した活動の内容

- ・1学期、社会科の単元「水はどこから」の学習で参考にした。
- ・2学期、社会科の単元「とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川兄弟の開発～」の学習で参考にした。
- ・11月に社会科見学で小河内ダム、羽村取水堰へ行った。その事後学習の新聞作りで、「ようこそ多摩川へ」を活用した。

活動の様子

【「ようこそ多摩川へ」に載っている生き物を調べました】



【玉川上水&水の学習のまとめ新聞を作りました】



活動を行った効果、参加者の声など

- ・多摩川のことがとても分かりやすくまとめているので、役立った。
- ・多摩川にいる生き物などに興味をもつことができた。
- ・教科書に載っていないことも書いてあり、参考になった。
- ・新聞を作ることが苦手な児童は、「ようこそ多摩川へ」を参考にすることで、進んで取り組むことができた。
- ・絵や図を描くことが難しい児童は「ようこそ多摩川へ」を参考に、丁寧に作り上げることができた。



多摩川ガサガサ探検隊

学校名	 川崎市立平間小学校
参加人数	 児童 90人（5年生） 教師 5人 その他（父母など） 20人

実施した活動の目的、概要

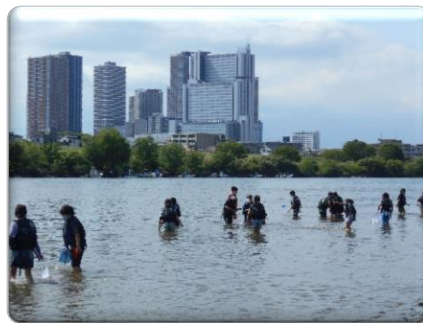
本校では、毎年5年生が総合的な学習の時間に、環境学習に取り組んでいます。その中で、多摩川ガサガサ探検隊を行い、実際に多摩川の中に入り、生き物を捕まえて観察する活動を通し、身近に流れる多摩川のすばらしさや面白さに気付くとともに、ふるさとの川を大切にするために自分たちにできることを考え、行動していく学習活動を行っています。その中で、子どもたちが調べ学習をする際、「ようこそ多摩川へ」を活用させていただきました。

実施した活動の内容

- | | | |
|--------------|---------------|------------|
| ①ガタガタ（干潟）探検隊 | ガス橋（東京側）の下の干潟 | 干潟観察 |
| ②ガタガタ（干潟）探検隊 | ガス橋（東京側）の下の干潟 | 生き物観察 |
| ③ガタガタ（干潟）探検隊 | 殿町のあたりの生き物観察 | ※雨天のため中止 |
| ④ガタガタ（干潟）探検隊 | ガス橋（東京側）の下の干潟 | 生き物観察・清掃活動 |

活動の様子

【 干潟観察・生き物観察・清掃活動 】





活動を行った効果、参加者の声など

・多摩川や生き物への関心がなかった子ども達が、自分たちの身近にこんなにもたくさんの生き物がいることを知り、多摩川の自分たちのふるさとの自然を守りたいという思いをもつようになった。そして、自分たちから「この多摩川を守るためにできることをしよう！」と清掃活動をはじめ、学校やまちの人たちへの呼びかけや、ゴミを拾うだけでなく、減らすための取組を多種多様に行うようになった。ラジオ出演するグループ、プラスチック回収を呼びかけるグループ、企業と協力して活動しようとするグループ、ゴミ拾いイベントを企画するグループ、竹の有効活用をきっかけに「ゴミではなく資源」という考えを広めようとするグループなど、多摩川とのかかわりをきっかけに、SDGsの考えをもとにしたアクションに取り組むようになった。



柳瀬川体験学習

学校名		清瀬市立清明小学校
参加人数		児童 134人（4年生63人 5年生71人） 教師 8人 その他（父母など）32人

実施した活動の目的、概要

総合的な学習の時間 4年「自然」、5年「環境」

柳瀬川での生態調査やその周辺を含めた環境保全活動を通して、柳瀬川の実態やそれを保全する人々や思いについて理解し、地域の一員として学区域を流れる柳瀬川の魅力を発信することについて考え、持続可能な視点から自然環境のあり方について考えると共に、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

実施した活動の内容

4, 5年共通 グローブライド株式会社との協働によるガサガサ学習

4年「柳瀬川の自然を調べよう」（9～12月）柳瀬川での生態調査を通し、多様な生物が周辺の環境と関わって生きていることを理解する。持続可能な視点から自然環境のあり方について考えると共に、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

5年「柳瀬川の魅力を保全しよう」（5～2月）柳瀬川での生態調査やその周辺を含めた環境保全活動を通し、豊かな自然に囲まれた学区域の実態やそれを保全する人々や思いについて理解する。

地域の一員として柳瀬川の魅力を発信することについて考え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

活動の様子



活動を行った効果、参加者の声など

- ・柳瀬川に生息している生き物を調べることで、柳瀬川がきれいな川に戻ったことを身をもって実感することができた。
- ・4年、5年と連続して体験学習をすることで、5年では生き物だけでなく、川岸を含めた周りの環境にも子供たちから学びの視点が向いた。
- ・学びを通し、柳瀬川の自然を守るために自分たちができることを考え、行動に移すことができた。
- ・柳瀬川の魅力を、いろいろな人へ伝えたい、教えたいという気持ちが高まった。
- ・子供たちは放課後等でも川での安全を今まで以上に考えて、行動するようになった。
- ・「ようこそ多摩川へ」を活用し、捕まえたり、見たりした動植物の名前や特色がすぐにわかった。



地域の宝 多摩川を守ろう

学校名	 国立市立国立第八小学校
参加人数	 児童 37人（4年生） 教師

実施した活動の目的、概要

- ・わたしたちの住む国立市を流れる多摩川。その多摩川を豊かな川として、これからも残していくために、どのような生き物が生息するか調査し、それらの生き物にとってよりよい環境とは何かを探究していく。

実施した活動の内容

- ・河川事務所の方より、多摩川の現状をお話していただく
- ・環境学習副読本「ようこそ多摩川へ！」を活用し、事前の調べ学習に取り組む
- ・全国川ごみネットワークの伊藤さんにごみ拾い活動
- ・ボランティアの大谷さんと生き物調査
- ・よりよい川にするためにプレゼンテーションを行う

活動の様子

河川敷でスポーツに取り組んでいたり、遊びに行ったりしている児童の中には、生き物を獲れるだけ獲ったり、ごみを周辺に置き去りにしてしまったりする現状が、学習前にはあった。

しかし、様々なゲストティーチャーのお話を伺ったり、実際にごみ拾いや生き物調査を実施したりする中で、考えや態度に変化が見られた。

また、人間だけでなく生き物にとってもよりよい川であるためには、どうしたらよいか、生息する生き物の特徴を調べる中で、「自分たちにできることは何か」を考え、プレゼンテーションにまとめることができた。



活動を行った効果、参加者の声など

事前の調べ学習において、環境学習副読本「ようこそ多摩川へ！」を活用してことが、とても効果的であった。中でも上流・中流・下流ごとに分かれて掲載されていることで、自分たちの住む地域が、どこに属し、そこで見られるであろう生き物について焦点化して探究学習を進めることができた。児童の一人一台端末と併用することで、より深く、そして効果的に学ぶことができていた。

川ごみ拾いや、生き物調査の活動を通して、「これからもごみ拾いを積極的に行い、生き物を守りたい」「もっと多くの生き物が安心して過ごせる川にしていきたい」などの感想がたくさん出た。

「自分事」として、これから自分たちにできることは何かを学習のまとめとして発表した。しかし、発表して終わらせてしまうのではなく、今後も地元を流れる川を大切にしようとする思いを保ち続け、持続可能な範囲で何かしらのアクションを起こしてほしいと願う。



多摩川探検隊（4年生） 狛江を楽しもうプロジェクト（3年生）

学校名	 狛江市立狛江第一小学校
参加人数	 児童 60人（3年生） 145人（4年生）

実施した活動の目的、概要

狛江の魅力の一つである多摩川について、その歴史的背景から数々のネーミングがつけられた意味を探り、自然が破壊された時代、それら乗り越えてきたこと、加えて、現代には新たな課題があることに気づく。それらは、人間社会の文明の進歩によって影響されていることから、地域の一員として、多摩川の魅力を知り、それらを地域・社会に伝えたいという思いをはぐくみながら、自らの力で課題解決に励み、受けてを意識しながら情報を選択、整理しながら、多摩川と生きる自分たちの姿を未来を見据えながら想像することができる。

実施した活動の内容

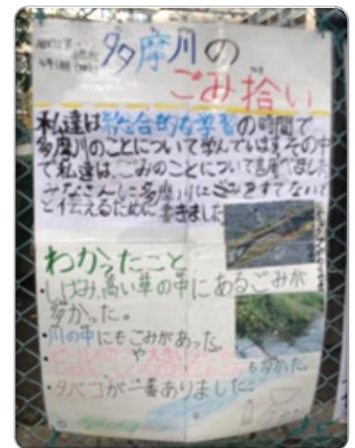
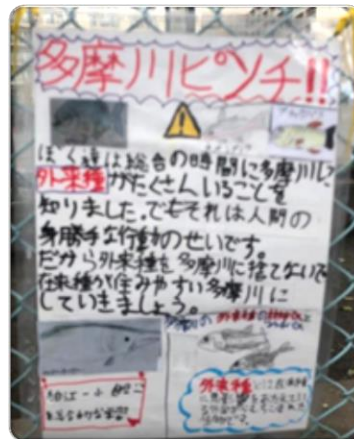
1学期に資料を基に、多摩川の課題を発見（冊子を活用）夏休みには児童が個別に多摩川でフィールドワークを行い自分の関心のある多摩川のことを調べ、まとめた。9月地域の「水辺の楽校」と連携し、多摩川で生き物調査（魚、昆虫、植物）と水質調査を行った。（事前、事後学習で冊子を活用）その後、自分たちにできる活動を考え、ポスターにまとめて地域へ発信した。

活動の様子

【水辺の楽校で生き物調査・水質検査をする様子】



【学んだことをまとめ、発信したポスター】





活動を行った効果、参加者の声など

児童は身近にある「多摩川」を楽しい遊び場、という考え方をしていたが、学習を通して、水害の歴史、汚染の歴史、生態系の変化の歴史等を学び、今の多摩川のある環境があるのは、多くの人々が努力してきた結果であることに気付いた。そして、自分たちも自分たちなりの方法で多摩川を守っていきたいという思いをもつようになった。誰かがきれいにしてくれるだろう。という考えではなく、「自分が行動しよう」と「自分事」としてとらえる児童が増えた。また、多摩川だけでなく、近所にある「野川」の環境も守りたいという思いをもち、児童から野川の清掃活動に参加したいとの声が上がリ、地域の野川清掃活動にも参加した。



とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～

学校名	 昭島市立富士見丘小学校
参加人数	 児童 53人（4年生） 教師 2人

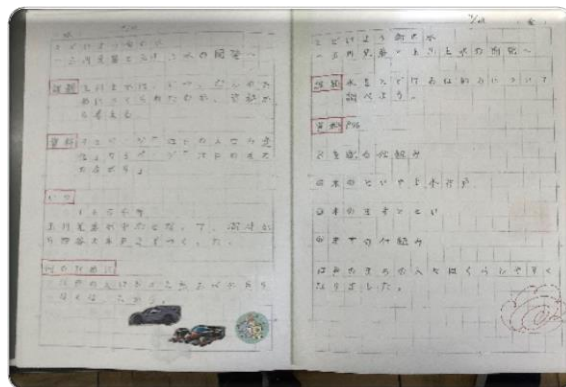
実施した活動の目的、概要

社会科の学習で、東京都を流れる多摩川について調べる中で、自分たちの生活とのかかわりに気づき、多摩川への理解を深めることができる。

実施した活動の内容

- ・社会科見学で、羽村取水堰や玉川兄弟の銅像、羽村市郷土博物館へ行く前の事前学習として「ようこそ、多摩川へ」のP30.31を用いて活動した。
- ・また社会科見学後に多摩川で見ることができる生き物たちについて、副読本を使って理解を深めた。

活動の様子





活動を行った効果、参加者の声など

- ・玉川上水について調べていく中で、タブレットのみで情報を収集し、整理することは、子ども達にとって難しい活動であったが、多摩川に特化した副読本の活用により、情報収集に課題がある児童の理解を深めることができた。
- ・副読本は全ページカラー印刷であったり、漢字にルビが振ってあったり、視覚的な情報もたくさん載っていたりすることから、支援が必要な児童にとっても、学習に前向きに取り組むことができる、使いやすい教材となっていた。



わたしたちの町の多摩川

学校名		川崎市立下沼部小学校
参加人数		児童 167人（5年生） 教師 人

実施した活動の目的、概要

多摩川の上流・中流・下流の様子について詳しく知ることで、自分たちの身近にある多摩川への愛着や関心をより高める。

実施した活動の内容

理科「流れる水の働きと土地の変化」の学習を行い、流れる水の働きによって川は上流・中流・下流でそれぞれ特徴があることを学習した。その学習の中で、学校のすぐ隣を流れる多摩川の上流・中流・下流の様子を観察することで、問題を解決してきた。

流れる水の働きについて学習したまとめに、「ようこそ多摩川へ」を活用して多摩川の様子を知ること、生き物や歴史などの多摩川の魅力を知ることができる。

実施の様子





活動を行った効果、参加者の声など

- ・上流から下流にかけて、生き物の種類が増えていっているね。
- ・川幅が関係しているのかな。
- ・上流にしか、野生の動物はいないんだね。
- ・見たことのない生き物が載っているよ。
- ・多摩川に行って、この生き物たちを探してみたい。
- ・校外学習で河口に行ったときに見たカニが載っているよ。
- ・多摩川って生き物がたくさんいるんだね。

【多摩川に関心をもち、実際に多摩川に行ってみたくて強い関心を示す児童が多かった。上流・中流・下流の特徴について、より詳しく知ることができていた。】



生物と地球環境調べ学習 / 玉川上水清掃進め！

学校名	 小平市立小平第三小学校
参加人数	 児童 調べ学習 105人（6年生） 清掃活動 50人【2年生 10人 3年生 15人 4年生 5人 5年生10人 6年生10人】 教師 3人 その他 3人

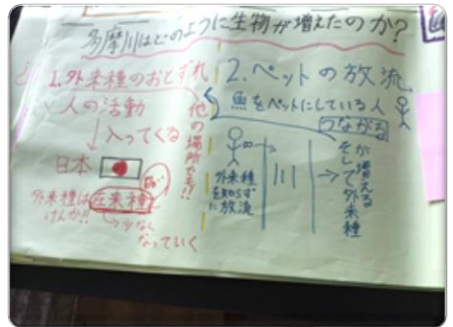
実施した活動の目的、概要

環境教育の一環として、赤十字委員会が主体となり、2～4年生のボランティアを募り、玉川上水の清掃活動を行いました。6年理科の最終単元生物と地球環境で水循環が多摩川や校区内の玉川上水にもあり、その生き物に人が大きく影響を与えていることを学ぶ。（模造紙でまとめ、ワールドカフェという交流方法で意見をシェアしました。）

実施した活動の内容

9月と2月、校区の玉川上水の清掃活動を本年度は2回行いました。上記の人数は2月のもので、9月にも同様の人数で行っています。3月に理科室で、調べ学習を環境読本を使いながら、調べ学習をしました。

活動の様子



活動を行った効果、参加者の声など

- ・清掃活動の後は、「自分の住んでいるところをきれいにできて気持ち良かった」という感想をもつ児童がいた。
- ・調べ学習は、汚い水にも生き物がいることや水質に酸素が関係していることなど、生物と地球環境を学び進める中で新しい知識を身に付けるのに読本が役立った。



多摩川博士になろう

学校名		調布市立染地小学校
参加人数		児童 35人（3年生） 教師

実施した活動の目的、概要

- ・多摩川の自然について親しみをもって調べ、季節による変化に気付いたりしながら自然への興味。
- ・ゲストティーチャーによる講話、多摩川の生き物に関する調べ学習を行い感心をもつ。
- ・まとめた。

実施した活動の内容

- 1学期…多摩川に生息する生物とふれ合う。観察したことをまとめて冊子を作成した。
- 2学期…1学期に作成した資料「ようこそ多摩川へ」を活用して調べ学習を行った。
- 3学期…2学期に調べたことをリーフレットにまとめた。

活動の様子



活動を行った効果、参加者の声など

【活動の効果】

- ・実際に観察した生物の詳細を写真付きで調べることができ、理解が深まりやすかった。
- ・調べ学習のテーマを決めやリーフレットのまとめの際、「ようこそ多摩川へ」の資料が見やすかった。

【児童の感想】

- ・絵や写真で多摩川の生物を知ることができて分かりやすかった。